

令和 6 年 3 月 29 日

長泉町議会議長 下山 和則 様

会 派 名 無所属

会派代表者名 福田 明



会派調査研究・研修報告書

このことについて、下記のとおり会派調査研究・研修を実施したので、報告いたします。

記

調査研究・ 研修者氏名	福田 明
調査研究・ 研修月日	令和 6 年 2 月 7日(水)～令和 6 年 2 月 8 日(木)
調査研究・研修地 及び事項	(1)目的地(愛知県半田市) 日 時 令和6年 2月 7日(水)午後 2 時 00 分～ 3 時 30 分 内 容 総合型地域スポーツクラブについて
	(2)目的地(愛知県飛島村) 日 時 令和6年 2月 8日(木)午前 10 時 00 分～ 11 時 30 分 内 容 学校教育について(小中一貫教育、英語教育、インクルーシブ教育、奨学金制度等)
	(3)目的地() 日 時令和 年 月 日()午前 時 分～ 時 内 容
調査研究・研修地 内容等	別紙のとおり (1) 内容 (2) 町行政との相違・留意点と、研修成果による提言 (3) 添付資料



研修内容：愛知県半田市 総合型地域スポーツクラブについて

日時：令和6年2月7日（水） 午後2時00分～3時30分

長泉町議会議員

福田 明、杉山夏男、米山 智、長野晋治

（１）内容

半田市では、全国的に先駆けて、半田市内5つの中学校区に総合型地域スポーツクラブが設立され、総合型地域スポーツクラブでは様々な種目のスポーツや文化活動を楽しむことができる。

総合型地域スポーツクラブとは、地域の住民が主体となって運営するスポーツクラブのことで、ひとつの種目だけでなく、たくさんの種目が用意されていて、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで地域に住む方が集い、それぞれの年齢・興味・関心・技術レベルに応じて活動できるのが特徴である。身近な場所で、地域のだれもが行いたいスポーツを選択でき、各種のイベントなどいろいろな形で楽しむことができる。総合型地域スポーツクラブの主役は地域住民であり、それぞれの地域で育み、発展させていくのが総合型地域スポーツクラブである。

半田市内の総合型地域スポーツクラブの主な活動場所は、小中学校のグラウンドや体育館であり、休日や平日の夜間に活動している。スポーツクラブの事務を執ったり会員の交流や情報交換の場所となるクラブハウスは中学校の敷地内にある。

総合型地域スポーツクラブでスポーツを指導するのは、各クラブに登録しているボランティア指導者である。つまり子どもたちは、学校の枠組みを超えて、多くの地域の指導者に見守られている。

クラブの運営の財源は会員の会費である。総合型地域スポーツクラブの運営の基盤はボランティアシップと受益者負担であり、会員自身がお金と労力と時間を提供し合って築いている。

半田市では文部科学省のモデル事業の指定を受けた「ソシオ成岩（ならわ）スポーツクラブ」を始め各中学校区にスポーツクラブが順次設立され、さまざまな活動を展開している。その先進的な取り組みは全国から注目を集めている。

総合型地域スポーツクラブが注目されている理由に「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」スポーツに親しむことができる『生涯スポーツ社会の実現』がある。また総合型地域スポーツクラブの設立はスポーツの振興だけでなく、次のような社会的なメリットも期待されている。

1 地域の子どもたちの健全育成につながる 2 親子、家族の交流や異世代間の交流により明るいまちづくりにつながる 3 施設の有効活用ができる 4 地域の健康水準が高くなる 5 高齢者のいきがいくりにつながる

（２）町行政との相違点・留意点、研修成果による町行政への提言

半田市は部活動の地域移行が全国で実施される前の早い時期から取り組まれ、総合型地域スポーツクラブを作ったが、批判があり中止してからまた作られたのが「ソシオ成岩（ならわ）スポーツクラブ」である。当町とは状況が違うがこの先進的な取り組みは参考になると思う。

（３）添付資料

なし

研修内容：愛知県飛島村

学校教育について（小中一貫教育、英語教育、インクルーシブ教育、奨学金制度等）

日時：令和6年2月8日（金） 午前10時00分～11時30分

長泉町議会議員

福田 明、杉山夏男、米山 智、長野晋治

（1）内容

飛島村は、愛知県の西南部、海部郡の南東端に位置し、全体の面積は約22.43km²と小さな村だが、北部は農村地帯、南部は臨海工業地帯となっており、昔ながらの、田園風景と名古屋港を中心とした貿易の拠点としての機能が共存している村である。農村地帯では、水稲・麦・露地野菜・温室野菜・花卉等の栽培が盛んに行われている。また、一部では金魚の養殖も行われている。

飛島学園は愛知県飛島村立の施設一体型小中一貫教育校として平成22年4月に開校し、令和2年4月から義務教育学校になった。「9年間で生徒を育てる」ことをモットーとし、授業、清掃、給食、学校行事など様々な活動を通して、上の学年の生徒が下の学年の生徒に思いやりをもって接することができる学園である。

義務教育9年間で発達段階に応じて4・3・2年の区分による計画的・系統的な教育活動を実践している。周辺には村役場をはじめ中央公民館、総合体育館、すこやかセンター（図書館、温水プール、児童館）など村の主要な施設に隣接している。

飛島学園の主な取り組みは、・初等部で学びの基礎を、中等部で学び方を学ぶ。・高等部では身につけた学力をいかす。・生徒が自分の考えをもち、他者とかかわりあいながら主体的に学び発信する。・他学年の生徒とふれあったり、共同で学習活動を進めたりすることで、他者への思いやりの気持ちや協力することの喜びを体感させ、豊かな心を育成する。・1年生から英語教育の早期導入を図っている。国際人として資質を高めることを視野に入れ、コミュニケーション能力の育成を図る。などがある。

広い校内には、中央に子どもたちがいつでも自由に学べるよう、メディアセンター（図書、資料）があり、普通教室と特別教室ゾーンと連続するオープンな空間となり1・2階にまたがり吹き抜けと階段を通して一体となっている。初等部にはなかよし広場、中・高等部にはテラスがあり、休み時間にすぐ外で休憩できる。余裕のある校舎になっている。400人が収容できる食堂に全学年と先生が一堂に会して給食を食べることができる。給食をカウンター越しに直接受け取るカフェテリア方式を採用している。このランチルームは集会の場として、またプロジェクターを使つての発表や上映会にも利用している。

不登校の児童生徒が数人いるが、30日という長期に休んでいる生徒はいないという。

（2）町行政との相違点・留意点、研修成果による町行政への提言

本町以上に豊かな財政力があり、小中一貫校として充実した教育の内容がある。長泉小と長泉中は校舎が離れているが、小中一貫校の形式は取れる可能性はあると思う。

（3）添付資料

・ なし